第一章

序論

A. 研究背景

外国人が日本語を習う場合、漢字が難しいと言われている。漢字は多く、様々な形があるからである。もともとインドネシアは非漢字圏で、すべての日常生活でローマ字が多く使われている。インドネシア語はローマ字で書いてあるからである。このことはインドネシア人日本語学習者にとって大きな困難となっている。漢字を書いたり、読んだりする習慣がないので最初日本語を学習するときには困難にぶつかるのである。

日本語を学習する学習者には、漢字の読み書きをマスターすることは重要なことである。したがって、漢字は、常に日本語教育実施に注意を浴びる(スジアント、2004：56-57)。

筆者が調べたところでは、スマラン国立大学における 2010 年度の学士過程の日本語教育学科の学習者は 1 学期の漢字の授業の目標を達成しなかったということが明らかになった。

学習する漢字を暗記するために困難であるため、筆者は、漢字の能力を高めるためのクアンテゥムメモライザー法の効果という実験により、漢字

を学習する方法を見つけるようにする。クアンテゥムメモライザーを使った先行研究はないようである。

B. 研究課題

述べられた背景を元に、次のように研究課題を明確にする：

1. クアンテゥムメモライザー法を使用する学習過程後の漢字をマスターする能力はどうであるか。
2. 漢字カードを使用する学習過程後の漢字をマスターする能力はどうであるか。
3. クアンテゥムメモライザー法を使用する学習過程後および漢字カードを使用する学習過程後の漢字をマスターする能力の相違はどうであるか。
4. 学習者にとって漢字を学習することにおいてクアンテゥムメモライザー法の効果性はどうであるか。

C. 研究の目的

1. クアンテゥムメモライザー法を使用する学習過程後の漢字をマスターする能力を理解する。
2. 漢字カードを使用する学習過程後の漢字をマスターする能力を理解する。
3. クアンテゥムメモライザー法を使用する学習過程後および漢字カードを使用する学習過程後の漢字をマスターする能力の相違を理解する。
4. 学習者にとって漢字を学習することにおいてクアンテゥムメモライザー法の効果性を理解する。

D. 研究の意義

この研究の結果は　：

1. 読者は日本語の学習において漢字をマスターするためのクアンテゥム・メモライザー法の教え方が明らかになる。
2. UNNES での漢字初級における漢字をマスターするためのクアンテゥム・メモライザー法の教え方を進めると期待される。

3. 学習者にとって漢字をマスターするための面白い覚え方を進めると期待される。

E. タイトルに使用した言葉の定義

クアンテゥム・メモライザーとは何でも、いつでも大事なことを覚えやすくなり、頭がよくなり記憶力が高まる。（DePorter,2008）

F. 仮説

仮説検定は次のとおり：　Ｔ数＞Ｔ表であれば対立仮説（HA）は立てる。逆に、Ｔ数＜Ｔ表であれば対立仮説（HA）は受けられない。すなわち、有意確立　5%でＴ数は　T 表より大きいあるいは同じであれば仮説は受けられる。

G. 研究方法

本研究は実験法を用いる。すまり、実験クラス（X）とコントロルクラス（Y）　で異なる方法を使って、同じものを教えることである。実験クラスではクアンテゥム・メモライザー法をもちいるが、コントロルクラスでは漢字カードを用いる。それから、テストが終わって、X 変数及び Y 変数を比較するのに t 検定で分析する

H. 研究の対象

本研究の対象はすべての 2010･2011 学年スマラン国立大学の一年生である。サンプルは 72 人である。実験クラスは 37 人で、コントロルクラスは 35 人である。

I. 研究手段

1. 試験
2. アンケート

UNIVERSITAS PENDIDIKAN INDONESIA
PERPUSTAKAAN